

# 大和高田市議会 12月議会報告

日本共産党大和高田市議団

議会ニュース Vol.84

大和高田市の12月定例議会が開かれ、新型コロナ対策の追加施策などが審議されました。新たな施策についてお知らせします。

## 経済を支え、子どもを守る施策を追加、来年度に向けたコロナ対策を

補正予算においては、経済を支える「プレミアム付き食事券」事業の実施、子育て世代への支援などが追加されました。併せて、コロナのために中止した行事費等を予算から削除し、他の事業の財源に付け替える補正も行われました。

### プレミアム付き食事券の販売

一人5000円の地域振興券に加え、1000円で3000円分の食事券を購入できる**プレミアム付き食事券（Go To Eat 大和高田）**を販売します。購入引換券は、年賀はがきで年明けに全市民に送付し、2月1日から実施を予定しています。

日本共産党議員団は地域の飲食店を応援する趣旨は理解しますが、新型コロナの「第三波」が広がりつつあり、冬場の感染拡大が続く可能性があるため、感染状況を見極めて延期も考慮することを求めました。



### 子育て世帯への追加支援

大和高田市で独自に、子ども一人につき1万円の給付を行います。対象は児童手当受給世帯（特例給付世帯を除く）です。1月分の児童手当に上乗せされるので、ほとんどの世帯で特別な手続きは不要です。なお、ひとり親世帯への追加給付も、国の制度で行われる予定です。

### 学校現場への対策強化

感染対策のための学校トイレ103か所の改修、サーマルカメラ、手洗い自動水洗などの備品購入費が盛り込まれました。また、11月に専決処分で学習指導員の増員が決定しています。日本共産党議員団は学習指導員やサポートスタッフ配置を次年度も継続することを求めています。

## お知らせ

## 年末・年始の医療体制について

### ◆新型コロナウイルス感染症への対応のため、必ず電話連絡のうえで受診してください

【葛城地区休日診療所】（時間外や繋がらない場合は右記番号へ）

大和高田市西町1-45 ☎22-7003

（受付時間）

午前 8:30～11:30 内科・小児科・歯科

午後 1:30～3:30 内科・小児科・歯科

5:30～8:30 内科・小児科

※受診前に電話で症状を聞き、発熱等でコロナの検査が必要と判断した場合は、検査医療機関を案内します。

【小児の深夜応急診療】（午前0時～6時）

檀原休日夜間応急診療所 ☎0744-22-9683

【新型コロナの疑いがある場合（24時間）】

奈良県庁 受診相談窓口 ☎0742-27-1132

【急な病気やケガの電話相談（24時間）】

小児 ☎#8000 おとな ☎#7119

※土庫病院（☎53-5471）市立病院（☎53-2901）などの救急病院は、年末年始は輪番制で広域の救急対応を行っています。急患の場合、受診の可否はあらかじめ各医療機関に電話でご確認ください。

### お困りごとはお気軽にご相談ください

新型コロナで、お暮らしにさまざまなお悩みやご不便を感じておられる方も多いと思います。どこから手を付けて良いのかわからない、公的な支援は敷居が高い、という声も聞こえてきます。

日本共産党は、様々な暮らしのお困りごとの相談をお伺いし、公的な制度も活用して解決につなげることができるよう一緒に取り組みます。お気軽にご相談ください。

日本共産党中南和地区委員会 ☎23-6323

市役所 共産党議員団控室 ☎22-1101 内線404



市議会議員  
向川 まさひで



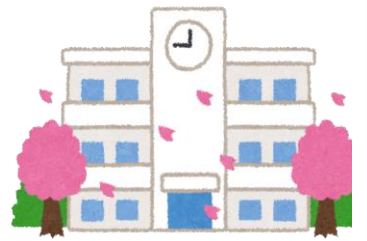
県議会議員  
太田 あつし

# 12月定例議会 向川まさひで市議の一般質問

## 来年度に向けて、子どもの学びを支える新型コロナ対応施策を

### ◆来年度も学習指導員・スクールサポートスタッフを学校現場に

令和2年3月から5月の休校を受け、学校再開後に子どもたちの勉強を支援するために、学習指導員やサポートスタッフが臨時に配置されています。今年度限りの雇用となっていますが、コロナ禍での学習支援の必要は今年度で終わるものではないと、継続を求めました。



### ◆家計急変の世帯には新入学準備金の年度内支給を

家計が厳しい世帯の児童に、学校生活に必要な費用を支援する「就学援助制度」があり、新小1・新中1には入学準備金が支給されます。しかし制度上、前年の所得で判定されるため、今年家計が急変した世帯は、来年7月以降にならないと対象になりません。新入学に必要な費用は入学前に支給しないと意味がない、と、他市の事例を踏まえて年度内支給を行うことを求めました。

## 米害虫「トビイロウンカ」被害への対策について

稲を枯らす害虫「トビイロウンカ」が猛威を振るい、奈良県の米づくりは大きな打撃を受けました。22年ぶりの不作となって、今後の米作農業の継続にも影響が出かねません。

来年の米作りへの不安をなくせるよう、市が独自に調査と情報発信を行うこと、経営に困難が生じた農家に対する支援策を検討することを求めました。

## ヘルプマーク・ヘルプカードをもっと知らせて

人工関節や心臓の病気など、見た目ではわかりにくいハンディを抱える人が配慮や支援を求めるための「ヘルプマーク」(右図)、言葉を出せない状態になったときに必要な処置を伝える「ヘルプカード」が2016年から奈良県でも導入されていますが、まだまだ知られていません。大和高田市での啓発が不十分であることを質し、広報誌やホームページでの啓発をするよう改善を求めました。答弁において市も必要を認め、12月11日からホームページに掲載されました。今後、広報誌でも啓発される予定です。



## くらしに寄り添い、困った人にやさしい政治を

12月11日、日本共産党は菅義偉首相に対して「緊急要請」を行い、(1)医療機関への減収補填(ほてん)(2)PCR検査の抜本的拡充(3)事業継続への直接支援の継続・強化(4)生活困窮者への支援強化(5)「Go To」事業の中止一〇の5点を、使い道の定まっていない約7兆円の予備費を使って緊急に行うことを求めました。長期化する新型コロナウイルス感染は、経済に深刻なダメージをもたらし、暮らしに困る人が増えています。今、政治の役割は、社会の傷をいやし、国民の暮らしを支え、地域の産業の立ち直りを支援することです。しかし、政府は「自助」を強調して支援策を来年度に大きく削減し、中小企業の淘汰をすすめ、貧困と格差を広げる方向になっています。学術会議の任命拒否など、異論を受け付けない姿勢も強権的です。



▲国会内で記者会見する  
志位和夫委員長

こうした政治を総選挙で大きく変えるため、日本共産党は2021年も頑張ります。

<日本共産党の「しんぶん赤旗」は、新型コロナウイルス問題の情報を日々お届けしています>

しんぶん赤旗・日刊紙で日々お伝えしている新型コロナウイルス感染症関連の独自記事を、ホームページで無料公開しています。



感染拡大防止と、暮らし・経済を守ることに、政治がどう取り組むべきか。日本共産党の提案をQ&A形式で紹介しています。



★政治の「いま」を伝える「しんぶん赤旗」は、日刊紙3,497円、日曜版930円(月額)です。